

府中町ふるさと歴史散歩 [第15回]

府中の食文化 年中行事と食べもの ②

— 涅槃会と花供御 —

2月15日、釈迦入滅の日、各寺院では釈迦の遺徳を追慕する儀式法会が行われていた。



涅槃絵図・地獄絵図・極楽絵図(いずれも長福寺所蔵)

花供御

材料

大豆・干飯・あられ・砂糖・水飴

作り方

- ①大豆・干飯・あられを炒る。
- ②水飴・砂糖を溶かす。
- ③両方を混ぜ合わせ、手でおにぎりの様に丸め固める。

長福寺では、釈迦の涅槃絵図や地獄・極楽絵図を掲げ、和尚さんは、訪れる子供たちに「悪業をなすと、あの世でこの地獄絵図の様に罰せられるぞ!」としつけをした。

この日、子供たちは親に作ってもらった「花供御(おいり・ほとぎとも言う)」を紙袋に入れてもらい、お寺へ持って行っていた。

もぐり飯

材料

人参・干しいたけ・ごぼう・板こんにゃく

調味料

しいたけのもどし汁・砂糖・塩・しょうゆ

作り方

- ①人参・ごぼうは笹がきにし、板こんにゃく・もどしたしいたけは細切りにする。
- ②材料の七分目のだし汁を入れて煮、沸騰してから調味料の半量を加えてさらに煮る。
- ③残りの調味料を加え、少し煮つめ、仕上げにしょう油を2、3滴落とし香りをつける。
- ④炊いたご飯に熱い具を混ぜ合わせる。

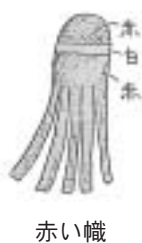
— 岩谷観音の赤い幟 —

2月18日は初観音の日とされ、高尾山の頂上近くのお堂では、信者がご詠歌をあげ、

遣教経が終わると壇家の人たちが「もぐり飯(もぐり飯)」が振舞われた。

当時、府中村では「ねはんさん」「鬼はんさん」と呼び、楽しみな行事であった。境内の紅梅の花が見頃であった。

護摩をたいていた。祭りの日には目印として、「赤い幟」が揚げられ、麓からもよく見えていた。「岩谷の観音さま」と言われ、とても親しまれた祭りであった。(現在、観音像は東区温品町で祭られている)



赤い幟

— 親が養う春のお彼岸 —

安芸門徒の多い府中村では、春のお彼岸の間はお寺でお説教を聴き、お墓参りをする。

お寺の遠い南部地区や中部地区では、大きな家や医者の家、当(か)家(一番の家)などに、近所の人たち(講の組内)が集まり、お坊様を呼び、お説教があった。お寺参りには「お鉢米」と言って、「お鉢袋」

祭りは、商売繁盛を祈願するため、広島市内や近隣の村から訪れた多くの参拝者で賑わった。参道の両側には多く出店があり、「たんきり飴」や「ニッキ水」など、今ではあまり売られていない珍しいものが多くあった。



お鉢袋

に米か麦を一升位入れて供え、これを「麦初穂」と呼んだ。

また、お彼岸にはどこの家も「おはぎ」を作り、仏前に供え、近所や親戚にも配りあった。各家の味の違いも楽しみであった。

お彼岸には嫁は里帰りするのが習わしで、春は実家から婚家へ、秋には婚家から実家へ、お重箱いっぱい詰めた「おはぎ」が届けられた。「親が養う春のお彼岸」「親を養う秋のお彼岸」と言われた。

折(おり)節の行事の食べ物を互いに分配し、共食することで、心の交流を図り、連帯感を深め、協同の意識を育てたのであろう。

問い合わせ

教育委員会生涯学習課

☎ 286-3272

府中町文化財保護審議会

副会長 秋山 榮子